

資料3

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名: 菟野町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生きた交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	日中バス 1コース 神森福王山線 菟野駅⇒福王山		A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 1,850人 【実績】 2,019人 対目標値 109.1% 増便に伴う利便性の向上により、利用者数が増加した。	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道等のダイヤ変更時等に必要に応じてダイヤ変更を実施する。(町、事業者) ・菟野町のりあいタクシーの利用状況を踏まえ、コミュニティバスの再編、路線の見直しに取り組む。(町、事業者) ・菟野町のりあいタクシーとコミュニティバスとの乗り継ぎ利用を周知し、コミュニティバスの利用促進を図る。(町、事業者) ・町北部から菟野駅や菟野高校へ通学する生徒に対し、コミュニティバスの利用を促す取組を行う。(町)
三重交通株式会社	通勤・通学バス 6コース 潤田福王山線 菟野東⇒福王山		A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 1,440人 【実績】 1,708人 対目標値 118.6% 夜間の増便による利便性向上のため、利用者数が増加した。	
三重交通株式会社	通勤・通学バス 6コース 潤田福王山線 菟野駅⇒福王山	・コミュニティバスの運行により、自らの移動手段を持たない移動制約者に対し、買い物・通院等の移動手段の確保を実施。	A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 1,230人 【実績】 1,463人 対目標値 118.9% 夜間の増便による利便性向上のため、利用者数が増加した。	
三重交通株式会社	通勤・通学バス 7コース 竹永小島線 朝上地区コミュニティセンター⇒菟野駅	・菟野町のりあいタクシーの運行により、コミュニティバスとの乗り継ぎが可能となり、効率的な運行体系が実現。	A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 5,380人 【実績】 5,733人 対目標値 106.6% 菟野高校の正門前の停留所設置、始業時間に合わせた運行ダイヤにより、利用者数が増加した。	
三重交通株式会社	日中バス 1コース 神森福王山線 菟野東⇒朝上地区コミュニティセンター	・各地区にて地域懇談会を開催し、利用者や町民からの意向を把握することにより、今後の運行改善に活用。	A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 2,910人 【実績】 2,692人 対目標値 92.5% 目標は未達成だが、増便に伴う利便性の向上により、前年から利用者数は約18%増加した。	
三重交通株式会社	通勤・通学バス 7コース 竹永小島線 朝上地区コミュニティセンター⇒菟野厚生病院		A 当初の計画どおり運行している。	年間利用者数 【目標】 930人 【実績】 1,316人 対目標値 141.5% 菟野高校の正門前に停留所を設置、始業時刻に合わせた運行ダイヤにより、利用者数が増加した。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月14日

協議会名:	菰野町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>菰野町の地域公共交通は、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー、AIオンデマンド乗合交通である「菰野町のりあいタクシー」、ロープウエーが運行しており、高齢者等の移動制約者の買物、通院等のための利用、通勤・通学のための利用に加え、来訪者の移動手段としても利用されている。令和2年10月から町内全域を運行している菰野町のりあいタクシーの乗降場所を新設するとともに、コミュニティバスの増便や運行見直し、停留所の新設などを行い、当町に最適な交通体系の構築を目指す。</p> <p>また、町内の地域公共交通のさらなる利用を促す目的で令和元年度に運用を開始した菰野町MaaS「おでかけこもの」は、コミュニティバスや菰野町のりあいタクシー、鉄道、路線バスなどの経路検索、菰野町のりあいタクシーの配車予約や事前決済を可能としており、多くの町民の方が利用している。この菰野町MaaS「おでかけこもの」の利便性の向上を図るために、さらなる機能拡充に取り組む。</p> <p>令和6年3月には「菰野町地域公共交通計画」を策定しており、「公共交通で気軽におでかけしたくなるまちを目指して」を基本方針として各種施策を展開する。</p>